

平成26年度 尚志館高等学校自己評価表

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する。
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する。
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化。

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.7	一人の教師が問題を抱え込むようなことなく、教職員間の連携はよくとれていた。ただ、今後は更に研修会等を増やすとともに、教職員間の共通理解を図り、連携を高めて生徒の指導に当たっていききたい。

2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学 級 経 営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.7	学級経営の目標を明確にし、日常の指導をきめ細かく行うことができた。学級の個々の生徒の理解に努め、生徒の能力をうまく引き出すことができ、生徒の希望する進路の実現ができた。
教 科 指 導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.5	年々生徒の学力低下が進んでいると感じるが学科もあるが、習熟度別学習や放課後の補習等を通して、少しずつではあるが成績が向上してきている。 学科・学年に応じて指導を工夫し、教材も幅広く用いて興味・関心の喚起に努めた。学園の経験者研修により、改めて授業の進め方や工夫点など考えることができた。
特 別 活 動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	4.4	生徒会役員を中心に、生徒が積極的に各行事に取り組み内容も充実してきている。職員の必要に応じたサポートも今後大事になっていくと思われる。 全体としては例年通りの行事であった。学校行事に向けた時間設定、生徒がしっかり準備できるための日程・時程の工夫が必要である。その中で、科主体の行事については、見直しや工夫が図れてよかった。
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守など、安全教育の徹底	3.9	挨拶・返事・時間厳守など基本的な生活習慣の確立を特に重視した。ただ、指導直後はいいが、指導の成果が長続きしない。全職員の共通理解・共通実践を今後も強化していきたい。また、ネットモラルが今後大きな課題である。ネットモラルについての指導やルール作りが必要である。また、バイク通学生の運転が荒いと感じることもあり、交通安全についての強化指導が必要である。
進 路 指 導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に合った進学・就職指導	3.6	外部講師を招いての、進路ガイダンスの実施や卒業生による出前授業などにより、学校全体として進路についての意識づけが強化された。このことが、公務員試験の多数合格や、就職の早期内定率100%達成につながったと思われる。また、適宜三者面談を実施したことで、保護者の理解・認識も高まり、協力・協調し合う良い関係が築かれていった。
保 健 衛 生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.4	新校舎に移ってから、生徒達が教室等を綺麗に保とうという意識が高まり、より熱心に清掃に取り組んでいる。一方、ゴミ分別についてはなかなか徹底できなかった。生徒一人ひとりの意識を変えないといけない。時間がかかっても根気強く指導していきたい。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.4	昨年の255名には、とても及ばなかったが201名の入学で定員を確保できた。体験入学や進学相談会など中学生や保護者に対して1年間広報活動を行った結果である。しっかり精査して来年度につなげたい。特に看護学科の受験者の減少を分析したい。広報の媒体として、入学案内やパンフレットの早期の作成は良かった。内容としては、文字を少なめにして、キャッチコピーやデザイン・写真等を工夫して、よりさわやかなものを作成したい。
部 活 動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.6	特進科の生徒でも、3年間部活動をしながら、難関大に合格した生徒もいた。勉強づけでなく、部活動への加入を積極的に奨励することで、もっと活気のある高校生活になると思う。また、もう少し同好会レベルの部活動を増やし、生徒の選択肢を広げたい。競技人口の減少で部員不足の部が出ている一方で、女子バレーと卓球が同好会から部へ昇格したことはよかった。
評 価				3.7	